

令和2年度(2020年度)

病虫害発生予察情報 第15号

8月月報

北海道病虫害防除所 令和2年(2020年)9月16日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

— 『並温・並雨・並照』 太平洋側は少雨、日本海側とオホーツク海側は多雨。

7日は宗谷地方で記録的大雨—

この期間の天気は、上旬は高気圧の張り出しの中となつて晴れた日もあつたが、低気圧や前線の影響により曇りや雨の日が多かつた。特に7日は台風第4号から変わった低気圧の影響により、宗谷地方で記録的な大雨となつた所があつた。中旬は太平洋側を中心に、下旬は日本海側とオホーツク海側を中心に晴れた日が多く、11日と27~28日は猛暑日となつた所もあつたが、下旬の終わりは北から寒気が流れ込んだ影響で、気温が平年よりかなり低い日もあつた。気温は中旬は平年より高く、月平均気温は平年並だつた。降水量は上旬は平年より多く、月降水量は平年並だつた。日照時間は上旬は平年より少なかつたが、中旬と下旬は多く、月間日照時間は平年並だつた。

上旬

1~2日：高気圧の張り出しの中となつて概ね晴れたが、雨の降つた所もあつた。3日：高気圧の張り出しの中となつて日本海側とオホーツク海側では晴れた所が多かつたが、気圧の谷の接近により日本海側と太平洋側西部で雨が降つた。4~6日：低気圧や前線を含む気圧の谷の影響で全道的に雨が降つた。日降水量は5日に留萌市大町で84.0mm、6日に美深町小車で72.0mmなど。7日：台風第4号から変わった低気圧の影響で広い範囲で雨が降り、特に宗谷地方では記録的な大雨となつた所があつた。日降水量は礼文町香深で164.0mmなど。8日：低気圧の影響によりはじめ雨の降つた所があつたが、その後は高気圧の張り出しの中となつて晴れた所が多かつた。9日：前線を含む気圧の谷の影響で、太平洋側では雨の降つた所が多かつたが、日本海側とオホーツク海側では晴れた所が多かつた。10日：前線を伴つた低気圧の影響で広い範囲で雨が降つた。

中旬

11日：前線を伴つた低気圧の影響で日本海側や太平洋側西部では雨が降つたが、オホーツク海側や太平洋側東部では晴れた所が多かつた。日降水量は稚内市宗谷岬で57.5mmなど。12日：気圧の谷の影響ではじめ雨の降つた所があつたが、その後は高気圧の張り出しの中となつて広い範囲で晴れた。13日：高気圧の張り出しの中となつて広い範囲で晴れたが、気圧の谷の通過によりオホーツク海側を中心に雨が降つた。14~15日：前線を伴つた低気圧の接近・通過により広い範囲で雨が降つた。日降水量は14日に室蘭で68.0mmなど。16日：低気圧の影響によりはじめ雨の降つた所があつたが、その後は気圧の尾根の中となつて広い範囲で晴れた。17日：気圧の尾根の中となつて広い範囲で晴れたが、低気圧や気圧の谷の影響により、太平洋側を中心に雨の降つた所があつた。18~19日：高気圧の張り出しの中となつて広い範囲で晴れたが、19日は前線の接近により日本海側北部で雨の降つた所があつた。20日：前線の影響により広い範囲で雨が降つたが、太平洋側東部を中心に晴れた所もあつた。

下旬

21日：前線の影響により太平洋側を中心に雨が降つたが、日本海側北部では晴れた所もあつた。22~24日：高気圧に覆われて全道的に晴れた。25日：高気圧の張り出しの中となつて晴れた所もあつたが、気圧の谷の接近によって雨の降つた所もあつた。26~28日：高気圧の張り出しの中となつて広い範囲で晴れたが、26日と28日は日本海側北部では前線の影響で雨の降つた所があつた。29~30日：前線や低気圧の影響により全道的に雨が降つた。日降水量は29日に枝幸町歌登で88.0mm、30日に登別市札内町で99.5mmなど。31日：気圧の谷や湿つた気流の影響により広い範囲で雨が降つた。

気候表(気温は平年差(°C)、降水量・日照時間・降雪量は比(%)を示す)

	気温偏差°C	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道22地点平均	+0.9	並	107	並	104	並
日本海側10地点平均	+0.7	並	130	多	101	並
オホーツク海側4地点平均	+0.9	高	123	多	101	並
太平洋側8地点平均	+1.3	高	71	少	110	並

注) 階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1981~2010の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

II. 病害虫発生概況

注) 本資料における表中の0の表記について

0のみの場合、調査時に発生がなかったことを示す。0.0あるいは0.00などは、四捨五入により数値が表示されていないことを示す。

A. 水稲

1. いもち病（葉いもち） 発生量 並

予察田の「きらら397」における葉いもちの発生量は、北斗市では平年よりやや多く、比布町では平年並、岩見沢市では平年より少なかった。

一般田における8月3半旬の巡回調査では、発生が認められなかった。

予察田における水稲の葉いもち発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	3.0	16.4	4.0	18.4	4.0	22.3	9
	ななつぼし	7.5	30.1	13.5	33.4	16.5	39.1	9
比布町	きらら397	25.0	34.4	30.0	36.7	48.5	41.2	10
	ななつぼし	24.5	31.8	25.0	40.8	31.5	36.5	4
北斗市	きらら397	23.5	17.6	27.0	18.6	27.5	18.6	10

注)各予察田の窒素施肥量は慣行栽培の5割増

一般田における水稲の葉いもち巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)		
			8月3半旬					8月3半旬		
			本年	前年				本年	前年	
空知	本所	6	0	0	渡島	本所	3	0	0	
	南東部	2	0	0		檜山	本所	2	0	0
	南西部	3	0	0			北部	2	0	0
	中空知	4	0	0		上川	本所	8	0	0
	北空知	7	0	0			富良野	2	0	0
石狩	本所	5	0	0	大雪		4	0	0	
	北部	7	0	0	士別	2	0	0		
後志	本所	4	0	0	名寄	2	0	0		
胆振	東胆振	4	0	0	留萌	本所	4	0	0	
日高	西部	3	0	0		南留萌	2	0	0	

いもち病（穂いもち・節いもち） 発生期 並 発生量 やや少

予察田の「きらら397」における枝梗いもちの初発期は、北斗市では平年よりやや早く、岩見沢市では平年並、比布町では平年より遅かった。首いもちの初発期は、北斗市では平年より早く、岩見沢市では平年並、比布町では平年よりやや遅かった。節いもちの初発期は、北斗市では平年より早く、岩見沢市および比布町では平年並であった。

「きらら397」における穂いもちの発生量は、北斗市では枝梗いもちが平年より多く、首いもちが平年並であった。比布町では枝梗いもちが平年よりやや少なく、首いもちが平年より少なかった。岩見沢市では枝梗いもち、首いもちともに平年より少なかった。「きらら397」における節いもちの発生量は、岩見沢市では平年より少なく、北斗市および比布町では平年並であった。

一般田における8月6半旬の巡回調査では、穂いもちの発生は認められなかった。

予察田における水稻の穂いもちと節いもちの初発期

地点	品種名	穂いもち				節いもち		平年数
		枝梗いもち		首いもち		本年	平年	
		本年	平年	本年	平年			
岩見沢市	きらら397	8月14日	8月14日	8月17日	8月17日	8月20日	8月22日	9
	ななつぼし	8月12日	8月13日	8月17日	8月17日	8月20日	8月17日	9
比布町	きらら397	8月11日	8月5日	8月12日	8月9日	8月14日	8月13日	10
	ななつぼし	8月11日	8月7日	8月13日	8月12日	8月14日	8月14日	4
北斗市	きらら397	8月5日	8月10日	8月6日	8月15日	8月11日	8月24日	10

注)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

予察田における水稻の穂いもちと節いもちの発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	穂いもち				節いもち		平年数
		発病枝梗率(%)		発病首率(%)		発病茎率(%)		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	8.6	22.2	0.9	9.5	0.1	7.0	9
	ななつぼし	20.0	25.6	3.3	27.0	0.2	16.4	9
比布町	きらら397	19.3	25.0	5.0	26.2	7.7	5.3	10
	ななつぼし	12.6	29.2	1.9	8.0	2.2	3.1	4
北斗市	きらら397	37.6	20.1	23.4	20.1	6.7	6.2	10

注)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

一般田における水稻の穂いもち巡回調査結果

普及センター		地点数	発病穂率(%)		普及センター		地点数	発病穂率(%)		
			8月6半旬					8月6半旬		
			本年	前年				本年	前年	
空知	本所	6	0	0	渡島	本所	3	0	0	
	南東部	2	0	0		檜山	本所	2	0	0
	南西部	3	0	0			北部	2	0	0
	中空知	4	0	0		上川	本所	8	0	0
	北空知	7	0	0			富良野	2	0	0
石狩	本所	5	0	0	大雪		4	0	0	
	北部	7	0	0	士別	2	0	0		
後志	本所	4	0	0	名寄	2	0	0		
胆振	東胆振	4	0	0	留萌	本所	4	0	0	
日高	西部	3	0	0		南留萌	2	0	0	

2. 紋枯病 発生期 やや早 発生量 やや多

予察田における初発期は、北斗市では平年よりやや早く、岩見沢市で平年並であった。発生量は北斗市では平年より多く、岩見沢市では平年並であった。

予察田における水稻の紋枯病発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	初発期		発病株率(%)		発病茎率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	8月14日	8月13日	54.0	51.6	7.8	10.5	13.5	14.8	9
北斗市	きらら397	7月28日	8月2日	74.0	38.1	30.9	22.1	28.0	18.5	10

注)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

3. 葉しょう褐変病 発生量 少

予察田における発生量は岩見沢市では平年よりやや少なく、比布町では発生が認められなかった。

予察田における水稻の葉しょう褐変病発生状況(8月2半旬)

地点	品種名	発病株率(%)		発病茎率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	16.0	30.4	1.0	2.7	4.0	9.5	9
比布町	きらら397	0	30.0	0	3.9	0	11.8	4

注)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

4. ウンカ類 発生量 やや多

ヒメトビウンカの予察灯による誘殺数は、比布町および北斗市で平年より多かった。長沼町では8月5半旬まで平年より少なかったが、6半旬の誘殺数が多かった。予察田におけるすくい取り成虫数は、北斗市で平年よりやや多く、長沼町および比布町では平年並であった。

セジロウンカの予察灯による誘殺数は、北斗市で平年より多く、長沼町および比布町では平年並であった。予察田におけるすくい取り成虫数は、北斗市で平年よりやや多く、長沼町および比布町では平年並であった。

一般田における8月3半旬の巡回調査によると、全76地点のうち、ヒメトビウンカ成幼虫の水田すくい取りによる捕獲数が吸汁害の発生する密度(成虫:1,800頭、または幼虫:900頭)に達した地点は認められなかった。

ヒメトビウンカ成虫の予察灯による誘殺数および予察田における水田すくい取り虫数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り成虫数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	166.4	476	445.4	172	8.0	12.5	7.5	180.0	118.3	22.5	8.3
2半旬	-	220.0	87	468.0	68	8.6	15.0	14.2	10.0	65.0	37.5	15.3
3半旬	85	208.8	168	164.7	52	9.9	62.5	38.8	0	83.5	10.0	11.3
4半旬	24	183.0	498	332.4	131	32.5	25.0	28.4	95.0	138.5	27.5	19.0
5半旬	0	291.9	3653	1044.4	129	14.8	75.0	122.0	585.0	596.7	92.5	25.8
6半旬	457	199.9	41389	2257.1	1384	333.3	92.5	148.0	600.0	959.5	122.5	56.5
平年数	10		10		10		8		10		10	

注) -は欠測。

セジロウカ成虫の予察灯による誘殺数および予察田における水田すくい取り虫数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り成虫数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	3.0	39	3.8	518	36.3	2.5	5.8	15.0	0.3	5.0	7.1
2半旬	-	29.2	5	26.9	191	71.3	0	1.1	0	3.1	22.5	19.8
3半旬	126	13.1	16	34.6	132	109.8	5.0	1.6	0	11.5	10.0	37.5
4半旬	4	40.2	7	23.9	870	75.8	2.5	1.8	20.0	5.0	90.0	23.8
5半旬	0	20.5	9	61.0	59	263.3	0	3.0	5.0	11.7	95.0	18.0
6半旬	0	5.2	3	34.6	133	23.5	7.5	6.1	0	18.8	67.5	30.5
平年数	10		10		10		8		10		10	

注) -は欠測。

巡回調査によるヒメトビウカ成幼虫の20回振り水田すくい取り虫数

普及センター	地点数	8月3半旬		普及センター	地点数	8月3半旬			
		本年	前年			本年	前年		
空知	本所	6	2.5	6.5	渡島	本所	3	6.7	1.7
	南東部	2	39.0	4.0		檜山	本所	2	0
	南西部	3	0	0	北部		2	5.5	0
	中空知	4	1.5	2.3	上川	本所	8	17.6	66.4
	北空知	7	0.4	53.9		富良野	2	1.0	36.0
石狩	本所	5	0.6	1.0		大雪	4	5.8	28.0
後志	本所	4	0	3.5	士別	2	0	0	
胆振	東胆振	4	0	3.3	名寄	2	0	0	
	日高	西部	3	0.3	0.3	留萌	本所	4	27.5
					南留萌		2	0	0

5. アカヒゲホソミドリカスミカメ 発生量 やや少

予察灯による誘殺数は、北斗市で平年並、長沼町では平年より少なかった。比布町では8月5半旬まで平年より少なかったが、6半旬の誘殺数が多かった。予察田におけるすくい取り成虫数は、長沼町および北斗市で平年並、比布町では平年より少なかった。

一般田における8月3半旬の巡回調査によると、全76地点のうち、水田すくい取りによる成幼虫の捕獲数が、発生モニタリングによる追加防除の基準である捕獲数1頭（「ななつぼし」）以上となったのは、空知地方および石狩地方の計5地点であった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯による誘殺数および予察田における水田すくい取り虫数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り成虫数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	16	742.2	14	28.4	55	90.2	0	1.1	0	1.3	12.5	3.8
2半旬	-	512.6	1	33.3	12	48.9	5.0	2.6	0	0	0	3.0
3半旬	146	357.3	3	29.4	15	46.7	2.5	4.9	0	0.5	2.5	2.3
4半旬	27	255.4	2	16.7	52	38.4	5.0	3.4	0	0.5	2.5	1.5
5半旬	15	195.0	9	17.1	28	72.4	2.5	5.6	0	0	0	2.5
6半旬	78	100.6	109	17.6	106	43.3	0	4.7	0	3.3	0	1.3
平年数	10		10		10		8		10		10	

注) -は欠測。

巡回調査によるアカヒゲホソドリカスミカメ成幼虫の20回振り水田すくい取り虫数

普及センター	地点数	8月3半旬		普及センター	地点数	8月3半旬			
		本年	前年			本年	前年		
空知	本所	6	0.2	0.9	渡島	本所	3	0.3	0.3
	南東部	2	0.5	0	檜山	本所	2	0	0
	南西部	3	0.3	0.3		北部	2	0	0.5
	中空知	4	0	0	上川	本所	8	0	0.5
	北空知	7	0	0.1		富良野	2	0	1.0
石狩	本所	5	0.2	大雪		4	0	0	
石狩	北部	7	0.1	0.1	士別	2	0	0.5	
	後志	本所	4	0	0.3	名寄	2	0	1.0
胆振	東胆振	4	0	0.3	留萌	本所	4	0	0
日高	西部	3	0	0.3		南留萌	2	0	0

6. フタオビコヤガ 発生量 少

予察灯による誘殺数は、比布町で平年より少なかった。長沼町および北斗市では誘殺が認められなかった。第2～3回幼虫による予察田の被害葉率は、長沼町で平年並、比布町では平年より低かった。北斗市では被害が認められなかった。

フタオビコヤガ成虫の予察灯による誘殺数および予察田における被害状況

月・半旬	予察灯誘殺数						被害葉率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	193.2	96	491.2	0	57.9	3.3	4.6	0.6	6.3	0	0.1
2半旬	-	269.1	6	213.3	0	22.9	3.3	4.6	0.4	8.5	0	0.1
3半旬	0	98.6	1	157.5	0	7.5	3.6	4.6	1.0	9.2	0	0.1
4半旬	0	30.0	0	49.2	0	2.5	3.4	4.9	1.9	12.0	0	0.1
5半旬	0	9.1	0	13.2	0	3.2	2.0	5.6	2.8	14.8	0	0.2
6半旬	0	5.9	0	16.8	0	3.2	1.2	5.2	5.5	16.3	0	0.3
平年数	10		10		10		8		10		10	

注) -は欠測。

B. とうもろこし

1. アワノメイガ 発生量 やや多

北斗市におけるフェロモントラップによる誘殺数は平年よりやや多かった。

フェロモントラップによるアワノメイガ成虫の誘殺数

月・半旬	北斗市	
	本年	平年
8月1半旬	0	0.4
2半旬	0	1.4
3半旬	4	1.6
4半旬	5	2.1
5半旬	16	8.7
6半旬	7	7.9

注) 平年数は10年

C. 豆類

1. べと病（大豆） 発生量 並

長沼町の予察ほにおける発生量は、平年並であった。

予察ほにおける大豆のべと病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	25.0	19.2	25.0	21.6	25.0	24.9	10

2. わい化病（大豆） 発生量 少

予察ほにおけるわい化病の発病株率は、長沼町および訓子府町のいずれも平年より少なかった。

予察ほにおける大豆のわい化病の発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	発病株率(%)		平年数
		本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	19.0	45.4	10
訓子府町	トヨコマチ	23.0	49.5	10

3. 菌核病（菜豆） 発生量 やや少

芽室町の予察ほにおける菌核病の発生量は、平年よりやや少なかった。

予察ほにおける菜豆の菌核病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	6.8	11.5	6.8	16.0	6.8	16.0	10

4. 灰色かび病（小豆・菜豆） 発生量 やや多

長沼町の予察ほ（小豆）における灰色かび病の発生量は平年より多く、芽室町の予察ほ（菜豆）では平年並であった。

一般ほにおける8月3半旬の巡回調査では、小豆の灰色かび病の発病は石狩および後志地方を除くすべての地方で発生が認められた。

予察ほにおける小豆の灰色かび病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	しゅまり	4.0	0.9	12.5	3.4	12.0	4.8	10

予察ほにおける菜豆の灰色かび病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	12.5	11.5	14.8	16.3	11.5	18.3	10

一般ほにおける小豆の灰色かび病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			8月3半旬					8月3半旬	
			本年	前年				本年	前年
石狩	本所	1	0	0	留萌	本所	1	2.0	1.0
後志	本所	2	0	0	網走	本所	2	0	0
胆振	本所	2	0	0		網走	2	0	2.5
	東胆振	3	2.7	1.7		美幌	3	1.7	3.3
檜山	本所	2	1.5	0	十勝	本所	5	1.0	2.3
	北部	1	0	0		東部	6	0	0.3
上川	富良野	2	0	0		東北部	4	2.0	1.8
	大雪	3	2.0	0		北部	3	0	3.3
	士別	2	0	6.0		西部	1	0	2.7
					南部	3	0	0.3	

5. マメシクイガ 発生期 並 発生量 並

フェロモントラップによる成虫の初誘殺日は、長沼町で平年より早く、比布町、芽室町および訓子府町で平年並、北斗市で平年よりやや遅かった。誘殺数は、長沼町、比布町および訓子府町で平年並、北斗市および芽室町では平年よりやや少なかった。

予察ほの大豆における産卵初発期は、長沼町、芽室町ともに平年よりやや早かった。産卵数は、長沼町で平年よりやや多く、芽室町では平年よりやや少なかった。

マメシクイガのフェロモントラップによる誘殺数と初誘殺日

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	57	23.8	38	45.1	0	1.4	9	15.7	3	2.2
2半旬	14	33.3	3	40.3	2	9.2	7	19.9	13	2.3
3半旬	49	28.1	5	15.1	2	10.5	5	18.2	3	6.7
4半旬	21	20.7	5	5.7	6	15.1	6	13.1	7	7.4
5半旬	7	16.4	0	2.6	5	14.9	2	7.6	1	4.0
6半旬	5	3.7	0	0.7	4	9.7	2	2.9	6	3.3
初誘殺日	7月12日	7月25日	7月16日	7月18日	8月10日	8月6日	7月26日	7月26日	8月3日	8月5日
平年数	10		9		10		10		9	

予察ほの大豆におけるマメシクヱガの産卵状況

月・半旬	長沼町		芽室町	
	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	3	4.4	1	2.3
2半旬	17	15.2	12	6.8
3半旬	58	21.4	9	12.6
4半旬	39	25.9	3	19.1
5半旬	31	27.6	1	9.6
6半旬	1	12.4	0	2.4
初発期	8. I	8. II	8. I	8. II
平年数	10		10	

注1) 10株あたりの卵数

注2) 品種は「トヨムスメ」

6. 食葉性鱗翅目幼虫（大豆・小豆） 発生量 並

予察ほの大豆の食害程度は、長沼町、訓子府町ともに平年並であった。小豆の食害程度は、長沼町、訓子府町ともに平年並であった。

予察ほにおける大豆および小豆の食葉性鱗翅目幼虫の食害程度

月・半旬	大豆				小豆			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	29	40.5	23	28.6	25	19.6	10	13.3
2半旬	30	45.4	25	29.9	25	19.9	11	16.4
3半旬	36	47.3	28	31.3	25	21.8	15	18.3
4半旬	41	48.3	31	31.7	25	22.9	15	20.1
5半旬	38	50.3	33	31.9	25	24.2	18	21.4
6半旬	47	51.0	36	33.4	25	24.4	21	22.4
平年数	10		10		10		9	

D. ばれいしよ

1. 疫病 発生量 やや多

予察ほの「とうや」における疫病の発生量は、長沼町、北斗市および訓子府町では平年よりやや多く、芽室町では平年より少なかった。

予察ほにおけるばれいしよの疫病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月1半旬		8月3半旬		8月5半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	とうや	63.0	43.1	100.0	52.9	100.0	52.9	10
	スノーマーチ	36.0	37.6	76.5	52.4	100.0	60.9	10
北斗市	とうや	98.5	52.0	-	52.6	-	-	10
芽室町	とうや	6.0	82.6	-	82.6	-	82.6	10
	スノーマーチ	2.0	82.9	7.5	85.4	9.0	90.0	10
訓子府町	とうや	100.0	67.3	-	72.4	-	72.4	10
	スノーマーチ	94.0	54.8	-	73.1	-	73.1	10

注) -: 他病害による影響、茎葉の黄化、枯凋により調査不能

2. アブラムシ類 発生量 やや少

予察ほにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生量は、芽室町および訓子府町で平年並だった。長沼町では発生が認められなかった。ワタアブラムシの発生量は、芽室町で平年よりやや多く、訓子府町では平年よりやや少なかった。長沼町では発生が認められなかった。モモアカアブラムシは、いずれの地点でも発生が認められなかった。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ジャガイモヒゲナガアブラムシ						ワタアブラムシ					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.3	3	1.4	1.5	0.5	0	2.1	9	0.1	45	32.7
2半旬	0	0	0	0.3	0	0.2	0	0.4	0	0	2.5	24.3
3半旬	0	0	0	0	0	0.1	0	0.7	4	0	0	28.8
4半旬	0	0	0	0	0	0.2	0	0.2	0	0	5.5	12.4
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1) 品種は「スノーマーチ」

注2) 20株各2複葉、合計40複葉を調査。虫数は10株20複葉あたり換算虫数。

E. てんさい

1. 褐斑病 発生量 並

予察ほにおける発生量は、長沼町および芽室町の「あまいぶき」では平年並、訓子府町の「リッカ」では平年より少なかった。

一般ほにおける巡回調査の結果では、全道的に発生は認められたが、発病株率が50%を超えたほ場は認められなかった。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名 (褐斑病抵抗性)	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	あまいぶき(“弱”)	29.0	18.9	36.8	34.7	52.4	55.9	10
	ライエン(“やや強”)	15.5	10.0	33.8	21.1	45.6	36.7	5
芽室町	あまいぶき(“弱”)	19.2	26.0	30.4	36.3	57.6	51.7	8
	ライエン(“やや強”)	13.2	17.7	23.6	26.2	38.8	34.4	5
	スタウト(“強”)	11.2	20.0	22.4	27.9	40.0	38.4	8
訓子府町	リッカ(“やや強”)	5.6	16.1	14.8	29.5	22.8	45.8	10

一般ほにおけるてんさいの褐斑病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)			
			8月3半旬		8月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	0	0	3.0	0
石狩	本所	3	1.7	0	14.3	1.5
後志	本所	3	1.3	0	10.7	0
胆振	本所	4	3.0	0.3	20.3	2.0
	東胆振	3	0	0.3	7.7	1.3
上川	富良野	3	0	0	0	0
	大雪	3	0	0	0	0
	士別	2	6.0	0	2.0	4.0
	名寄	2	0	0	0.5	0
網走	本所	10	0.5	0.5	0.8	1.1
	清里	6	0	0	0	0
	網走	2	6.0	0	10.5	4.0
	美幌	5	0	0.2	0	0
	遠軽	3	2.0	1.6	10.7	12.0
十勝	本所	7	0	0	0	1.4
	東部	6	0.2	0.2	0.2	1.3
	東北部	4	2.0	0.5	5.5	4.3
	北部	3	0	0	3.3	1.0
	西部	3	1.0	2.0	3.0	4.3
	南部	3	0	0	18.0	0

2. ヨトウガ（第2回） 発生期 やや遅 発生量 並

予察灯による第2回成虫の初発期は、滝川市で平年より早く、比布町および芽室町で平年並、長沼町、北斗市および訓子府町では平年より遅かった。誘殺数は、比布町で平年よりやや多く、北斗市、芽室町および滝川市で平年並、長沼町および訓子府町では平年よりやや少なかった。

予察ほにおける産卵初発期は、芽室町で平年よりやや早く、長沼町および訓子府町では平年並であった。食害程度は、芽室町で平年よりやや高く、長沼町および訓子府町では平年並であった。

一般ほにおける8月6半旬の巡回調査によると、全76地点のうち、防除の基準となる被害株率50%以上となったのは上川地方の2地点であった。

ヨトウガ成虫の予察灯による誘殺数と第2回初誘殺日

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町		滝川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.7	1	0.4	0	0.3	0	0.1	0	0.2	1	0
2半旬	-	2.5	3	0.4	0	0.5	0	0.3	0	1.3	2	1.2
3半旬	1	1.5	4	1.9	1	0.1	2	0.8	0	1.5	2	0.8
4半旬	0	1.2	10	0.9	0	0.2	1	1.6	0	1.0	4	0.7
5半旬	1	1.2	2	0.8	0	0.2	1	1.0	1	1.3	2	0.3
6半旬	0	0.4	0	0.5	0	0	1	0.2	0	0.4	0	0.8
初誘殺日	8月15日	8月5日	8月2日	8月4日	8月14日	7月31日	8月14日	8月12日	8月24日	8月11日	7月26日	8月4日
平年数	10		10		10		10		10		5	

注) -は欠測。

予察ほにおけるヨトウガの産卵および食害程度

月・半旬	卵塊数(50株あたり)						食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.7	0	0.3	0	0	66	62.1	45	35.3	23	28.6
2半旬	3	1.3	1	0.9	0	0.5	62.5	59.8	45	35.1	25	30.0
3半旬	1	2.4	2	1.8	3	0.9	62.5	60.2	48	34.1	28	29.6
4半旬	2	2.5	0	2.4	1	0.6	62	55.5	46	34.6	31	30.6
5半旬	1	2.4	0	2.6	2	0.3	61.5	52.5	51	34.7	31	33.0
6半旬	0	1.1	0	1.3	0	0.8	67	54.6	56	35.6	35	35.3
初発期	8.Ⅱ	8.Ⅱ	8.Ⅱ	8.Ⅲ	8.Ⅲ	8.Ⅲ						
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率(%)

普及センター	地点数	8月6半旬		普及センター	地点数	8月6半旬	
		本年	前年			本年	前年
空知	南東部	1	0	0	0		
石狩	本所	3	12.3	12.0			
後志	本所	3	2.7	2.7			
胆振	本所	4	2.3	16.0			
	東胆振	3	12.0	2.3			
上川	富良野	3	9.3	5.0			
	大雪	3	15.0	9.3			
	士別	2	31.0	0			
	名寄	2	42.5	4.0			
十勝	本所	7	3.9	1.8			
	東部	6	2.7	4.0			
	東北部	4	9.0	25.5			
	北部	3	0	0			
	西部	3	6.0	1.3			
	南部	3	4.0	0			
	網走	本所	10	6.7	3.0		
	清里	6	17.3	0.9			
	網走	2	15.0	5.0			
	美幌	5	0	2.0			
	遠軽	3	15.3	1.1			

F. あぶらな科野菜

1. 軟腐病(だいこん) 発生量 並

長沼町の予察ほにおけるだいこんの軟腐病の発生量は初夏播き作型では平年並、夏播き作型では発生が認められていない。

予察ほにおけるだいこんの軟腐病発生状況

地点	品種名	作型	発病株率(%)						平年数
			8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
			本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	耐病総太り	初夏播き	1.5	3.1	5.5	8.8	10.0	9.9	10
	耐病総太り	夏播き	-	-	0	0	0	0.4	10

注) - : 調査時期外

2. モンシロチョウ 発生量 やや多

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、北斗市で平年より多く、長沼町では平年よりやや少なかった。一般ほにおける8月3半旬の巡回調査によると、全4地点のうち、モンシロチョウが優占種であったのは石狩地方、上川地方の2地点であったが、食害程度は高くなかった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	1	1.4	0	41.1
2半旬	0	13.1	107	60.0
3半旬	6	18.7	206	73.6
4半旬	3	18.9	91	34.1
5半旬	8	17.8	-	17.7
6半旬	8	15.6	-	9.0
平年数	10		10	

注1) 10株あたりの寄生虫数。

注2) -は調査不能

3. コナガ 発生量 やや少

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、長沼町、比布町および芽室町で平年並、北斗市および訓子府町で平年よりやや少なく、滝川市では平年より少なかった。

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年並、北斗市では平年より少なかった。

一般ほにおける8月3半旬の巡回調査によると、全4地点のうち、コナガが優占種であったのは石狩地方、上川地方の2地点であったが、食害程度は高くなかった。

コナガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町		滝川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	47	68.1	6	9.8	30	57.8	7	1.5	0	2.4	0	3.0
2半旬	38	71.1	4	4.2	31	30.1	2	2.5	2	1.9	0	1.4
3半旬	60	57.2	9	6.6	11	23.5	3	1.5	0	1.8	0	4.0
4半旬	92	47.0	9	2.0	13	26.4	4	1.2	1	2.0	0	1.6
5半旬	61	30.7	4	0.6	7	14.4	1	0.8	1	1.8	2	0.8
6半旬	43	27.3	0	1.0	0	6.6	0	1.3	0	1.4	0	1.2
平年数	10		5		10		10		10		6	

注) 設置場所はアブラナ科野菜ほ場近辺。比布町、芽室町はアブラナ科野菜以外のほ場近辺。訓子府町は雑草地。

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	1.5	0	53.9
2半旬	1	6.2	0	54.0
3半旬	10	17.0	8	39.4
4半旬	16	18.8	2	9.8
5半旬	7	16.0	-	6.3
6半旬	5	8.5	-	8.9
平年数	10		10	

注1) 10株あたりの寄生虫数。

注2) -は調査不能

4. ヨトウガ (第2回) 発生量 並

予察灯による第2回成虫の誘殺数は、比布町で平年よりやや多く、北斗市、芽室町および滝川市で平年並、長沼町および訓子府町では平年よりやや少なかった(てんさいの項参照)。

予察ほのキャベツにおける産卵は、長沼町および北斗市において認められなかった。

一般ほにおける8月3半旬の巡回調査において、全4地点のうち、ヨトウガが優占する地点はなかった。

G. りんご

1. 黒星病 発生量 やや多

＜4月17日付け注意報第2号＞

予察園における発生量は、長沼町（無防除）の「昂林」、「つがる」および「ふじ」のいずれの品種とも平年より多かった。一方、余市町の予察園（慣行防除）では発生が認められていない。

巡回調査の報告によると、一般園では発生が認められていない。

予察園におけるりんごの黒星病発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	病葉率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	昂林	98.9	47.1	93.5	24.7	10
	つがる	98.6	34.9	87.5	16.2	10
	ふじ	100.0	70.2	91.9	38.0	3
余市町(慣行防除)	昂林	0	-	-	-	-

注1) 長沼町は8月6半旬、余市町は8月第5週のデータ

注2) - : 調査対象外または平年値なし

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			8月3半旬	
			本年	前年
後志	北後志	2	0	0.9
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	4	0	2.0
留萌	南留萌	1	0	0

2. 斑点落葉病 発生量 並

長沼町の予察園（無防除）の「王林」における発生量は平年並であった。余市町の予察園（慣行防除）では発生が認められなかった。

一般園における巡回調査の報告によると、渡島および留萌地方の感受性品種（デリシャス系等）で発生が認められている。

予察園におけるりんごの斑点落葉病発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	病葉率(%)		平均病斑数(個/葉)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	王林(新梢)	4.0	4.6	0.05	0.10	9
	王林(徒長枝)	4.2	5.4	0.06	0.11	9
余市町(慣行防除)	昂林(徒長枝)	0	-	-	-	-

注1) 長沼町は8月6半旬、余市町は8月5週目のデータ

注2) - : 調査対象外または平年値なし

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			8月3半旬	
			本年	前年
後志	北後志	2	0	3.1
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	1	15.0	3.0
留萌	南留萌	1	51.0	41.0

3. ハマキムシ類 (第2回) 発生期 やや遅 発生量 並

予察園におけるリンゴコカクモンハマキ (第2回) のフェロモントラップでの初発期は、長沼町で8月18日(平年:8月13日)と平年よりやや遅かった。誘殺数は、長沼町および余市町Bで平年並、余市町Aでは平年よりやや少なかった。

幼虫による被害新梢率は、長沼町で15.0%(平年:3.2%)と平年より高かった。余市町A(平年:0.1%)および同町B(平年:0.0%)では被害は認められなかった。

一般園におけるフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの誘殺数は、岩見沢市、札幌市、伊達市、壮瞥町および七飯町で平年並、旭川市では平年よりやや少なかった。石狩市では誘殺が認められなかった。

予察園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.4	0	0.2	2.7	0.9
2半旬	0	0.9	0	1.3	5	2.3
3半旬	1	2.6	0.6	1.4	1.6	1.9
4半旬	1	1.6	0.4	0.7	0.7	2.4
5半旬	1	0.8	0	0.7	0.7	2.1
6半旬	0	0.5	0	1.0	0.9	1.6
平年数	10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.1	0	0.4	0	0	0.7	0.3	0.3	0	0	0.3	0.2	0.4
2半旬	0	0.4	0	0.4	0	0.0	0	0.4	1.4	0.2	0	0.9	0.8	2.1
3半旬	0	0.2	0	0.5	0	0.4	0	1.0	0.3	0.5	0.4	0.8	0	1.2
4半旬	0	0.3	0	1.4	0	0.1	0	1.1	0	0.2	1.6	0.8	0	1.0
5半旬	0	0.0	5	2.4	0	0.7	0.5	1.5	0.2	0.1	5	1.0	0	0.7
6半旬	1	0.2	2.7	3.2	0	1.0	2.5	2.3	0.8	0.7	1	1.5	0	0.3
平年数	10		10		9		10		10		10		9	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

4. モモシンクイガ 発生量 やや多

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町で平年よりやや多く、余市町Bで平年並、余市町Aでは平年よりやや少なかった。長沼町の予察園における産卵数は平年より多く、被害果率は高く推移した。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、岩見沢市、札幌市および壮瞥町で平年よりやや多く、旭川市で平年並、伊達市および七飯町では平年よりやや少なかった。

予察園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数、産卵数および被害果率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						産卵数		被害果率(%)	
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		長沼町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	103	129.2	33.3	52.5	69.6	59.5	336	100.3	99	94.4
2半旬	106	52.6	23.6	45.1	85	45.3	142	61.5	100	97.4
3半旬	64	31.6	17.3	37.3	52.4	46.5	130	38.4	100	97.0
4半旬	70	21.5	13.4	33.4	36	40.0	204	57.6	100	99.0
5半旬	70	24.1	10	20.8	23.6	33.4	215	69.8	100	99.1
6半旬	48	24.5	3.4	20.5	23.1	43.5	67	63.4	100	100.0
平年数	10		10		10		10		10	

注) 産卵数は100果調査。余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	28.8	15.4	55	11.5	21.3	23.9	11.3	6.0	53.4	82.3	93.9	50.1
2半旬	10	8.9	38.7	8.2	20	19.0	6.4	6.5	46.9	86.2	39	32.1
3半旬	8.3	4.8	30	7.2	6.7	20.7	26.0	7.6	29.9	76.2	19.8	28.9
4半旬	3.7	2.8	38.3	9.1	3.0	24.5	21.3	7.4	15.6	42.2	5.8	20.8
5半旬	5	2.0	15	11.1	3.0	30.3	19.8	9.6	3.6	31.5	1.8	26.6
6半旬	5.5	1.9	13.8	12.0	3.3	32.8	39.2	13.5	12.4	30.8	4	23.5
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

5. ハダニ類 発生量 少

予察園において、いずれの地点でも、リンゴハダニおよびナミハダニの発生は認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.4	0	2.5	0	0.5	0	0.3	0	5.0	0	0.2
2半旬	0	1.0	-	1.0	-	3.0	0	3.9	-	12.6	-	5.7
3半旬	0	1.8	0	0.6	0	0.9	0	1.2	0	1.9	0	7.1
4半旬	0	1.2	0	0.7	0	4.0	0	0.4	0	5.6	0	55.7
5半旬	0	2.2	-	0.6	-	4.9	0	2.3	-	3.6	-	4.4
6半旬	0	2.2	-	0.2	-	1.2	0	1.4	-	1.3	-	6.4
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

注2) 30葉あたりの寄生虫数。

6. キンモンホソガ 発生量 並

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町で平年より多く、余市町Bで平年よりやや多く、余市町Aでは平年よりやや少なかった。予察園における被害葉率は、長沼町で平年並、余市町AおよびBでは平年より低かった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、札幌市および増毛町で平年よりやや多く、旭川市で平年並、その他の地点ではいずれも平年より少なかった。

予察園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数および被害葉率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						被害葉率(%)					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	71	10.7	29.4	114.0	468	151.8	3.0	6.8	0	0.4	0	0.2
2半旬	84	16.3	41.4	109.9	214.3	97.7	9.0	7.1	-	0.3	-	0.1
3半旬	35	13.8	56.9	128.1	137.7	132.6	11.0	8.4	0	0.6	0	0.3
4半旬	30	23.3	40.1	222.4	84.6	73.8	12.0	12.1	0	0.4	0	0.1
5半旬	76	25.0	9.3	113.7	33.6	78.3	20.0	14.9	-	0.8	-	0.1
6半旬	344	21.6	18	149.8	30	64.9	21.0	16.6	-	0.4	-	0.4
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0.9	59.0	0.7	0.7	1	15.6	9.2	50.1	29.5	215.0	2.2	88.7	0	0.4	150	76.9
2半旬	0.4	78.8	3.7	0.7	1	26.3	12.9	57.0	24.3	232.7	8.1	169.4	0.6	2.3	402	152.9
3半旬	2.7	69.0	4.6	1.0	5	33.4	4.6	51.9	4.9	262.1	4.1	185.3	2.4	1.7	477	237.0
4半旬	1.3	63.7	0	1.4	2	29.0	1	33.8	0	280.3	1.3	128.8	0	0.8	763	160.6
5半旬	0	35.9	5	1.2	0	51.2	0	15.2	0	220.9	0.7	185.9	0	0.3	416	232.0
6半旬	0	47.3	3.5	1.9	3	52.4	0	17.6	0	221.6	0.1	165.4	0	1.9	260	307.5
平年数	10		10		6		10		10		10		9		10	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

翌年の病害虫の発生を抑制するため、収穫残さ等を適正に処理しましょう！

・水稲のいもち病

水稲いもち病の第一次伝染源は、保菌種子と前年の被害わらや籾殻で、これらは本田における葉いもちの早期多発の原因となります。そのため、本田の被害わらは圃場外に搬出し、堆肥化するなど完全に処理しましょう。育苗ハウス内およびその周辺の籾殻は放置せず、衛生管理を徹底しましょう。

・施設内のモモアカアブラムシ等越冬害虫

平成27年に実施した冬期間のビニールハウス内での発生調査において、収穫残さや床土、使用予定の育苗用土に生じた雑草などに、モモアカアブラムシの発生が認められました。施設内で越冬しているモモアカアブラムシは、春以降ほ場に飛来し、てん菜の黄化病（旧：西部萎黄病）の病原ウイルスの媒介に関与していることが示唆されています。このほかにもアシグロハモグリバエ、ミカンキイロアザミウマなど、露地では越冬することの出来ない害虫は、施設内で越冬しています。そのため、冬期間には、施設内の葉菜類などの収穫残さ、雑草などを適正に処分しましょう。

・アスパラガスのツマグロアオカスミカメ

ツマグロアオカスミカメは、アスパラガスの出芽期に、収穫する若茎にすじ状の傷や曲りを生じさせたり、茎の先端を壊死させたりすることで商品価値を損ねます。本種はアスパラガスの茎葉部に産み付けられた卵で越冬します。越冬した卵からふ化した幼虫が春季に被害を及ぼすことから、本種の被害への対策として、秋季の茎葉黄変後に茎葉をほ場外に搬出することが効果的です。

農薬の適切な保管管理と空容器等の適正な処分に努めましょう!!

■ 農薬の保管管理等に当たって

農作業も終盤となり農薬を使用する機会も少なくなりますが、使い残した農薬は適切に保管管理するとともに、空容器等は適正に処分するようにしてください。

- 1 農薬は乾燥した冷暗所に保管箱又は保管庫を設置し、施錠して保管してください。
- 2 農薬の誤用を防止するため、種類別に分類整理して保管してください。特に除草剤は、誤って使用すると薬害等の被害を招く恐れがあるので、他の農薬と明確に区分してください。
- 3 毒物又は劇物に該当する農薬は、毒物及び劇物取締法により容器や包装、保管場所への表示等が定められていますので、これを遵守してください。
また、消防法に基づく危険物に該当する農薬は、貯蔵及び取扱いの基準が定められているので、これを守ってください。
- 4 誤飲等を防ぐため、農薬は他の容器への移し替えや小分け、特に食品容器への移し替えは行わないようにしてください。
- 5 使用済みの農薬の空容器は、他の用途には絶対に使わないでください。
また、農薬の空容器及び残農薬の処分に当たっては、関係法令に基づき適正な処分に努めてください。
なお、農薬の空容器の処分に当たっては、容器内に農薬が残らないよう十分に除去してください。

農薬に関してのお問い合わせは

道庁農政部生産振興局技術普及課（TEL:011-231-4111(内線)27-838）

北海道病虫害防除所（TEL0123-89-2080）

または最寄りの総合振興局・振興局農務課にご照会ください。

登録情報や農薬取締法等については

農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>)をご覧ください。